

暴力への潜在的態度に関する研究
—暴力概念へのアクセシビリティと暴力行為に関して—

従来の研究では、攻撃や暴力概念へのアクセシビリティが高いと、攻撃的・暴力的認知や行動が増加することが示されている（例えば、Todorov & Bargh, 2002）。しかし、このような状態でも、活性化した攻撃的・暴力的概念と不快感情が強く連合していれば、攻撃的・暴力的認知や行動の発現が抑制される可能性がある。こうした点を踏まえ、本研究では、暴力的概念へのアクセシビリティと暴力への潜在的態度とが、暴力的認知や行動に及ぼす影響を検討することを目的とした。まず研究1では、和田（2014）が作成した暴力への潜在的態度を測定する **Implicit Association Test**（暴力 IAT）を修正し、信頼性と妥当性を検討した。その結果、暴力 IAT の内的一貫性及び再検査信頼性、予測的妥当性が確認された。その上で研究2では、暴力的概念へのアクセシビリティと暴力への潜在的態度とが、暴力的認知や行動に与える影響を検討した。その結果、暴力的概念へのアクセシビリティを高めない場合、暴力的概念と不快概念の連合強度が弱いほど、暴力的認知が増加することが示された。一方、アクセシビリティを高めた場合には、暴力的概念と不快概念の連合強度は、暴力的認知や行動に影響を及ぼしていなかった。最後に、以上を踏まえて、暴力的概念へのアクセシビリティと暴力への潜在的態度とが、暴力的認知や行動に及ぼす影響について議論された。